

「お金はありがたい」

大橋 宥生

お金が欲しい。何としてもお金が欲しい。

僕の夢は、「金持ち」になることだ。どうすれば、お金が稼げるのだろうか。どうして、子どもは働けないのだろうか。そうだ！滋賀のおじいちゃんのお店で働かせてもらおう。僕は、お父さんとお母さんにお願いで、滋賀のおじいちゃんのお店で働かせてもらうことにした。こうして僕は、夏休みの間、岡山県から滋賀県までたった一人で新幹線に乗って行った。

滋賀県のお家についたら、まずは洗濯やお風呂掃除のやり方を伯父さんに教えてもらった。今日から僕が、この家の洗濯と掃除をやること決めた。滋賀のおばあちゃんはお母さんが子供のころに死んでしまつて、おじいちゃんは一人暮らしだから、僕が助けなければいけないからだ。

いよいよ今日から仕事が始まる。絶対に稼いでやる。十一時にはお店に入つてモップがけをして、お客さんの注文をきいたり、配膳をしたりした。そして、食器の洗い物もした。特に大変だったのが注文を正しくきくことだ。間違えないように注文をとっている、また次から次へと大勢のお客さんが来てあせるからだ。最初は全然なれなくてとっても大変だったけど、二日目ぐらいから、だんだん慣れてきて少しきん張が和らいだ。

こうして僕は、滋賀県二日目に、十一歳の誕生日を大忙しで過ごした。いつもだったら、今ごろ家族でケーキをおいしく食べているのだろうかと思つた。

僕がお店で働いて、嬉しかった思い出が二つある。ひとつは、よく来るお客さんが、「ぼくよく頑張ってるね。」つてお小遣いをくれたこと。僕は思わず心の中でニヤけた。もう一つは、携帯電話を忘れたお客さんを追いかけて、「これ忘れましたよ。」つて言った時、すごく感謝されたこと。

働いていると色々なことがあつた。

滋賀県に来てから仕事を始めると、とっても大変なことになるなあ。」と初めて気が付いた。だから、毎日働いてくれているお父さんやお母さんに感謝しないとと思つた。

8月に入つて、お母さんとお兄ちゃん達が滋賀に来た。その時、僕は正直とても安心した。僕の家に戻りたいという気持ちがいつきに湧いてきた。

最後の日、僕は遂におじいちゃんからお金を貰つた。初めて自分で稼いだお金。「働いてよかったあ！」と心から思つた。

これから僕は、お金を大切に使い、使いたいところをちゃんと考えたいと思う。毎日のご飯も、お金が動いているのだと感謝して生活していきたい。

お金よありがとう。そして、お父さんお母さん働いてくれて本当にいつもありがとう。